

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2297200152		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム浜松根洗(第1ユニット)(第2ユニット)		
所在地	静岡県浜松市北区根洗町738-2		
自己評価作成日	平成26年7月4日	評価結果市町村受理日	平成26年9月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JizosyoCd=2297200152-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JizosyoCd=2297200152-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成26年7月15日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

開設して5年目を迎えています。自治会の行事や近隣施設との交流も増えてきています。介護予防センターが主催する第3土曜日の「いきいきこうぞ」もご利用者様と一緒に参加しています。健康維持に努め、楽しみのある生活の提供に心がけています。季節の行事(初詣・節分・花見・イチゴ狩り・スイーツバイキング・流しソーメン・花火大会・敬老会・クリスマス会等)は定着しています。行事計画、環境整備、地域交流に関しては委員会活動が中心で進めています。ご利用者様とご家族を信頼と笑顔で支え、住み慣れた環境作りを目指しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

生きる力となる“食”について特に尽力している事業所です。本年度で二回目となったスイーツバイキングでは利用者お手製の和菓子や、若かりし頃子どものために作ったレシピも復活して、家族や近隣を含め61名の参加があり盛況をみせました。日頃の細やかな気づきが状態変化の早期発見につながり、高血圧を患った人が内服薬不要になった例もあります。また本年5月までの一年間は長期入院となる利用者もなく、法人から『優秀在所賞』を受賞しています。得意分野を活かした“役割作り”に力を入れ、一人ひとりの歴史をひもとき真摯に向き合うケアは、安寧の場所としての穏やかな表情に現れています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 愛の家グループホーム浜松根洗(第1ユニット)(第2ユニット)	施設内地域活動委員が中心となり、地域交流を行っている。ご家族様を交えたお楽しみ会も開催することができた。	本人が望む生活を実現するために利用者自身が担当者会議に出席したり、より多くの情報収集を心がけて邁進する姿勢には、法人理念に謳われる「その人らしさ」を中心に据えたケアが実践されていることが視えます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の行事に参加することで、当施設の活動が少しずつ理解され、協力を得られている。馴染みのホームに少しずつなっている。	小学校バザーへの協力や自治会行事の夏祭り、草刈り、防災研修への参加を経て近隣住民から声をかけられる場面が増え、「愛の家はいいよね」といった言葉も聞かれているとのことで認知度も高まっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解を深め、認知症サポーター研修も受講した。ホーム内のケアに留まらず、地域に貢献できるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム内の活動報告や問題点など提供したり、質問や意見をいただき、サービスの向上に努めている。和やかな雰囲気作りを行っている。	実践発表を報告して事業所理解を深めたり、身近なものを活用した災害対策を紹介したり趣向を凝らしたテーマで行われています。家族から行政への要望も出され活気ある様子が議事録から確認できました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	年3回開催されている、北区事業者情報交換会に必ず出席し、情報収集や情報共有を行い協力関係を築いている。	運営推進会議には毎回担当者の出席がありボランティア情報など具体的なアドバイスがもらえています。北区事業者連絡会では他事業所の事例から学ぶことが多く、単独外出事故訓練の実施に繋がっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0を宣言している。人としての尊厳を重視し、スタッフ間で見守りの工夫を共有し、ストレスが加わらない支援に取り組んでいる。	玄関施錠はありません。行動を制限するのではなく好きな取組みは何かを探り、本人と職員のストレス軽減に尽力しています。不適切な声かけには場を改めて振り返りの機会をもち、理解できるよう話し合っています。明るく開放感が感じられる職員の対応にその反映を視認しました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法の学習を施行し、事業所内で虐待がないように注意している。相手に与える影響を考慮し、言動・行動の注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する学習を行い、知識を高めている。ご家族様で実際、成人後見人制度を活用されている方もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約また改定等の際は、わかりやすい表現で説明し、理解・納得を図っている。質問や要望も窺っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様が普段発せられる言葉を聞き逃さず、日頃のケアに活かしている。ご家族様の要望はケアプランや運営に反映している。	介護計画見直しには都度家族の要望を聴き、本年度からは利用者をプラン作成の会議に交えて取組んでいます。面会の少ない家族には購入物品の相談をはじめ電話での密な連絡で信頼関係を形成しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や要望に関しては、環境整備や業務改善を行い、働きやすい職場作りを目指している。	休憩時間確保のため業務内容の見直しが進められ職員間のスムーズな連携が生まれています。年1回以上の個人面談を行い気になる職員には声をかけ、働きやすい環境づくりのために管理者は惜しみなく時間をつくっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況を把握し、ユニットリーダーとも話し合いを行い、問題解決に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	高卒・大卒の採用スタッフは、キャリアサポート課がプログラムを作成し、研修も充実している。中途採用者の研修は内部研修が主である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員が同業者と交流する機会は夏祭りくらいなので、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みを行っていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化に伴う精神的な混乱・身体的疲労が考えられる。その方の人生を知り、感情移入できるように配慮している。サービス内容に関するご家族様の要望も取り入れている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の段階からご利用者様・ご家族様より生活に対する要望を伺い、サービス計画書に反映している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは環境の適応に重点を置き、声掛けや一緒にできることの関わりを多く持つようにしている。生活の状況を把握しながら、事故防止にも努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症による不安や混乱もあるので、傾聴や寄り添うケアの必要性を認識している。一緒に家事をやったり、感謝の気持ちを伝え意欲ある生活を目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様に対するご家族様の想いを大切にし、ともに現状における問題点・楽しい関わり方を検討している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所との継続支援を一部の方は行っている。これまで行っていない方も今後計画を立て実施していきたい。	ひ孫への贈り物作りに精を出す人や馴染みの店を訪れる人もいます。スイーツバイキングのマドレーヌには、家族が大切に保管していた利用者のレシピノートから再現し親子で懐かしんだエピソードがあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段会話がないご利用者様同士でも、梅干し作りやらつきょう漬けの時には、自然とテーブルに集まり会話が弾んだ。生活習慣を取り入れた関わりも重要である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了されたご家族様に、元ご利用者様への面会の様子やこれまでのスタッフを支えてくださったお礼のお手紙をお出した。ご家族様からも温かいお手紙が届いた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様が自分の思いを表現できる方は、意向に沿った生活の提供を行なっている。困難な場合はご家族様の意向を反映させていただいている。	こだわりをもって洗濯物たたみを引き受ける人には専用の机が用意されていました。好きなものや得意分野で日課としての役割を担うことが自発行動と張りのある生活へ結びつき、そのための意向把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様より、子育ての頃の様子や生活の情報など伺い、新たな共有内容を得ている。若いころ記載されたおやつレシピを貸して頂き、一緒におやつ作りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「何ができて何ができないのか。」「好きな取り組みは何か。」「嫌いなことは何か。」など見極め、有する能力に応じた支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議において、職員・ご家族様で話し合ったことはあるが、ご利用者様を交えての話し合いはなかった。今後は少しずつ取り入れ、更にケアの質向上に努めたい。	日頃の気づきは日報に記載して共有し具体的な支援方法が日課計画表に反映されています。担当者会議には家族の出席を呼びかけ本年7月からは利用者も交えた結果、本人の言葉とプランが連動しています。	担当者会議への本人参加を継続し、利用者本位のプランに反映されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	認知症や身体レベルの低下など日々の生活の状況を把握し、記録・報告をしている。実践や介護計画の見直しに繋がっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能性を求めて、アイデアを出し合い楽しい生活の提供に心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの「歌声広場」では懐かしい曲目が多く歌われるので、楽しいひと時が築けている。介護予防センターが主催する「いきいきこうぞ」の参加も定着してきている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の往診時、日常の身体面・認知面の情報をお伝えし、健康管理を行っている。体調異常時は早期受診を行い、ご家族様に受診内容を報告している。	全員が協力医に変更していますが専門医は家族の協力を得て馴染みの医療機関への受診を継続しています。職員の観察力で異常の早期発見につながりスムーズな受診となっています。月に2回歯科医の訪問もあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを早めに報告し対応している。場合によっては医師に連絡し適切な指示をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、ご家族様や医療相談の方と連携をとり安心した治療に臨めるようにしている。退院時はご利用者様・ご家族様が不安な気持ちにならないように配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については、ご家族様の意向を伺い、同意書をいただいている。終末期においてはご家族様を支えることも重要である。	臥床時間が増え、健康状態が著しく悪化し食事摂取できなくなった段階で家族と相談を重ね、必要とされる情報を提供しています。予想できる状態変化を段階的に伝えて繰り返し話し合う真摯な姿勢に、転所後家族から感謝の手紙が届いた例もあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルに沿って、適切な初期対応ができるようにしている。スタッフの入れ替えもあり定期的な訓練が必要である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域交流を通じて協力体制ができています。ご利用者様に必要性を伝え、夜間想定訓練も行っている。指定避難場所の確認も行っている。	訓練では家庭にある物品を利用してマスクやお皿、スプーンを作成したり、連絡網をメール配信に変更し、改善を進めています。地域防災訓練にも参加しましたが有事の際に協力が得られる体制を築くことが課題となっています。	地域密着として根づいていますが、今後は防災面でも相互の協力体制が構築されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的には敬語で接し、ご利用者様の人生背景も考慮し、一人ひとりの人格も尊重した関わりを行っている。	“親しみのなかにも基本を崩さずに、の方針を貫き、柔和な笑顔と落ち着いた声かけで全体の雰囲気や和む様子には、理念通りのその人らしさが実直に守られており、温かみのなかにも礼節漂う環境にあります。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の表情や会話などから本人の要望を汲み取り、こちらの一方的な支援ではなく、選択できる声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースをまず第一とし、ご家族様の要望も大切に、穏やかな気持ちで生活できるようサポートしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪や身だしなみを大切に、整容のチェックを行い取り組んでいる。好みの色や着易さ・スタイルに配慮し身支度を整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様と一緒に食事の準備を行っている。食事中も楽しい雰囲気になるよう話題を提供し、咀嚼状態を観察し対応している。	法人の管理栄養士が作成したメニューをもとに減塩でも素材の味が活かした食事は、降圧剤不要となる人が増えるとの嬉しい結果を招き、食の大切さを実感しています。朝食はパンかご飯を選択することができています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下状態を把握し、食形態をその人に合ったものを提供している。むせが強い方はとろみやゼリーを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科との連携で、口腔ケア・肺炎防止に努めている。認知症の方はケアの必要性が理解できない方もおり、その人に合った声掛けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄や失禁の状態に合わせて、適宜リハビリパンツや布パンツの使用を行っている。時間ごとのトイレ誘導を行い、自然排泄を目指している。	排泄のサインを見逃さずトイレ誘導することで失敗が減り、たとえ失敗しても恥ずかしさを受け留めて自尊心を傷つけない対応を心得ています。日中の歩行や規則正しい生活リズムが夜間の自立と自然排泄に功を奏しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘と精神状態の関与は大きく、日常生活に影響が生じる。腹部の張りや食事摂取、水分摂取状況に注意し、排便の把握を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	立位保持が困難な方のみ安全面を考慮した日程で行っている。入浴を楽しみとしている方の支援は問題ないが、強く断られる方の対応に苦戦している。	季節の変わり湯や複数の入浴剤を準備し、入浴拒否には好きな花で脱衣所や浴室を装飾して気分を高め、その人に合ったアプローチで「快」の入浴となるよう努めています。湯は一人ひとり張り替えています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	環境の調整を行い、生活パターンを把握しながら安心した睡眠が得られるよう支援している。不穏の時は傾聴することで穏やかになれる方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルに効用や注意が記された説明用紙を入れ、理解と支援に努めている。特に糖尿病・高血圧・脳梗塞などの薬に対しては指導を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様と一緒に住み慣れた近くのお店に行き、親しみのある方々とお話をした。いつもとは違う表情のご利用者様がそこにいた。短期記憶障害はあるが感情はしっかり心に存在している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スタッフ体制もあるので、その日の希望に沿った対応は困難である。担当者が行事計画を立てゆっくりとした個別対応の時間を設けている。ご家族様の要望と一緒にイチゴ狩りに行った。	日常的には午前中を活動の時間として散歩に出かけています。「甘いものが食べたい」という利用者にパイ工場見学を企画したり、回転寿司やドライブ、大衆演劇といった担当職員が聴き出した要望をもとに個別外出計画を立てています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことの大切さは理解しているが、認知症における所持は、自己の管理ができず不穏になることも多い。お預かり金の中からご利用様が購入したい物を一緒に買いに行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	あらかじめご家族様に不穏時の対応や電話の時間帯など伺い対応している。お孫様との手紙のやり取りをととても楽しみにされている方がいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有する空間は、お一人おひとりが自分のペースや能力・嗜好を踏まえた生活をしていただいている。また、ご利用様様の作品を掲示することでやりがいに繋がっている方もいる。	一枚一枚丁寧に折った鶴で彩られた壁面やちぎり絵、畑やプランターを利用した野菜作りの指南がみられます。個々の得意分野を披露する場が各所にあり、ポリシーをもって役割に集中できるスペースが守られ「受け入れられている、安心感で満ちていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日常生活の役割が確立されている方に対して、それを担う場所とテーブルの設置を行った。他の方においてもゆっくりくつろげる空間を提供している。テーブル席も配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持ち込んでいただき、空間が安心できる場所として生活できるような環境調整を行っている。	持ち込まれたカーテンやベッドが好みの空間を演出し、家族が撮影した写真に囲まれた居室は長い人生の歴史と深い愛情が感じられます。混乱期には危険のないよう整理し、リネン類は毎日順番に交換しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	夜間における環境の適正は転倒や転落事故にも大きく関与してくる。ご家族様にも理解・協力していただき安全対策に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 愛の家グループホーム浜松根洗(第1ユニット)(第2ユニット)	施設内地域活動委員が中心となり、地域交流を行っている。ご家族様を交えたお楽しみ会も開催することができた。	本人が望む生活を実現するために利用者自身が担当者会議に出席したり、より多くの情報収集を心がけて邁進する姿勢には、法人理念に謳われる「その人らしさ」を中心に据えたケアが実践されていることが視えます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の行事に参加することで、当施設の活動が少しずつ理解され、協力を得られている。馴染みのホームに少しずつなっている。	小学校バザーへの協力や自治会行事の夏祭り、草刈り、防災研修への参加を経て近隣住民から声をかけられる場面が増え、「愛の家はいいよね」といった言葉も聞かれているとのことで認知度も高まっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解を深め、認知症サポーター研修も受講した。ホーム内のケアに留まらず、地域に貢献できるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム内の活動報告や問題点など提供したり、質問や意見をいただき、サービスの向上に努めている。和やかな雰囲気作りを行っている。	実践発表を報告して事業所理解を深めたり、身近なものを活用した災害対策を紹介したり趣向を凝らしたテーマで行われています。家族から行政への要望も出され活気ある様子が議事録から確認できました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	年3回開催されている、北区事業者情報交換会に必ず出席し、情報収集や情報共有を行い協力関係を築いている。	運営推進会議には毎回担当者の出席がありボランティア情報など具体的なアドバイスがもらえています。北区事業者連絡会では他事業所の事例から学ぶことが多く、単独外出事故訓練の実施に繋がっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0を宣言している。人としての尊厳を重視し、スタッフ間で見守りの工夫を共有し、ストレスが加わらない支援に取り組んでいる。	玄関施錠はありません。行動を制限するのではなく好きな取組みは何かを探り、本人と職員のストレス軽減に尽力しています。不適切な声かけには場を改めて振り返りの機会をもち、理解できるよう話し合っています。明るく開放感が感じられる職員の対応にその反映を視認しました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法の学習を施行し、事業所内で虐待がないように注意している。相手に与える影響を考慮し、言動・行動の注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する学習を行い、知識を高めている。ご家族様で実際、成人後見人制度を活用されている方もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約また改定等の際は、わかりやすい表現で説明し、理解・納得を図っている。質問や要望も窺っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様が普段発せられる言葉を聞き逃さず、日頃のケアに活かしている。ご家族様の要望はケアプランや運営に反映している。	介護計画見直しには都度家族の要望を聴き、本年度からは利用者をプラン作成の会議に交えて取組んでいます。面会の少ない家族には購入物品の相談をはじめ電話での密な連絡で信頼関係を形成しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や要望に関しては、環境整備や業務改善を行い、働きやすい職場作りを目指している。	休憩時間確保のため業務内容の見直しが進められ職員間のスムーズな連携が生まれています。年1回以上の個人面談を行い気になる職員には声をかけ、働きやすい環境づくりのために管理者は惜しみなく時間をつくっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況を把握し、ユニットリーダーとも話し合いを行い、問題解決に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	高卒・大卒の採用スタッフは、キャリアサポート課がプログラムを作成し、研修も充実している。中途採用者の研修は内部研修が主である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員が同業者と交流する機会は夏祭りくらいなので、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みを行っていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化に伴う精神的な混乱・身体的疲労が考えられる。その方の人生を知り、感情移入できるように配慮している。サービス内容に関するご家族様の要望も取り入れている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の段階からご利用者様・ご家族様より生活に対する要望を伺い、サービス計画書に反映している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは環境の適応に重点を置き、声掛けや一緒にできることの関わりを多く持つようにしている。生活の状況を把握しながら、事故防止にも努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症による不安や混乱もあるので、傾聴や寄り添うケアの必要性を認識している。一緒に家事をやったり、感謝の気持ちを伝え意欲ある生活を目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様に対するご家族様の想いを大切にし、ともに現状における問題点・楽しい関わり方を検討している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所との継続支援を一部の方は行っている。これまで行っていない方も今後計画を立て実施していきたい。	ひ孫への贈り物作りに精を出す人や馴染みの店を訪れる人もいます。スイーツバイキングのマドレーヌには、家族が大切に保管していた利用者のレシピノートから再現し親子で懐かしんだエピソードがあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段会話がないご利用者様同士でも、梅干し作りやらつきょう漬けの時には、自然とテーブルに集まり会話が弾んだ。生活習慣を取り入れた関わりも重要である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了されたご家族様に、元ご利用者様への面会の様子やこれまでのスタッフを支えてくださったお礼のお手紙をお出した。ご家族様からも暖かいお手紙が届いた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様が自分の思いを表現できる方は、意向に沿った生活の提供を行なっている。困難な場合はご家族様の意向を反映させていただいている。	こだわりをもって洗濯物たたみを引き受ける人には専用の机が用意されていました。好きなものや得意分野で日課としての役割を担うことが自発行動と張りのある生活へ結びつき、そのための意向把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様より、子育ての頃の様子や生活の情報など伺い、新たな共有内容を得ている。若いころ記載されたおやつレシピを貸して頂き、一緒におやつ作りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「何ができて何ができないのか。」「好きな取り組みは何か。」「嫌いなことは何か。」など見極め、有する能力に応じた支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議において、職員・ご家族様で話し合ったことはあるが、ご利用者様を交えての話し合いはなかった。今後は少しずつ取り入れ、更にケアの質向上に努めたい。	日頃の気づきは日報に記載して共有し具体的な支援方法が日課計画表に反映されています。担当者会議には家族の出席を呼びかけ本年7月からは利用者も交えた結果、本人の言葉とプランが連動しています。	担当者会議への本人参加を継続し、利用者本位のプランに反映されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	認知症や身体レベルの低下など日々の生活の状況を把握し、記録・報告をしている。実践や介護計画の見直しに繋がっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能性を求めて、アイデアを出し合い楽しい生活の提供に心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの「歌声広場」では懐かしい曲目が多く歌われるので、楽しいひと時が築けている。介護予防センターが主催する「いきいきこうぞ」の参加も定着してきている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の往診時、日常の身体面・認知面の情報をお伝えし、健康管理を行っている。体調異常時は早期受診を行い、ご家族様に受診内容を報告している。	全員が協力医に変更していますが専門医は家族の協力を得て馴染みの医療機関への受診を継続しています。職員の観察力で異常の早期発見につながりスムーズな受診となっています。月に2回歯科医の訪問もあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを早めに報告し対応している。場合によっては医師に連絡し適切な指示をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、ご家族様や医療相談の方と連携をとり安心した治療に臨めるようにしている。退院時はご利用者様・ご家族様が不安な気持ちにならないように配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については、ご家族様の意向を伺い、同意書をいただいている。終末期においてはご家族様を支えることも重要である。	臥床時間が増え、健康状態が著しく悪化し食事摂取できなくなった段階で家族と相談を重ね、必要とされる情報を提供しています。予想できる状態変化を段階的に伝えて繰り返し話し合う真摯な姿勢に、転所後家族から感謝の手紙が届いた例もあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルに沿って、適切な初期対応ができるようにしている。スタッフの入れ替えもあり定期的な訓練が必要である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域交流を通じて協力体制ができている。ご利用者様に必要性を伝え、夜間想定訓練も行っている。指定避難場所の確認も行っている。	訓練では家庭にある物品を利用してマスクやお皿、スプーンを作成したり、連絡網をメール配信に変更し、改善を進めています。地域防災訓練にも参加しましたが有事の際に協力が得られる体制を築くことが課題となっています。	地域密着として根づいていますが、今後は防災面でも相互の協力体制が構築されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的には敬語で接し、ご利用者様の人生背景も考慮し、一人ひとりの人格も尊重した関わりを行っている。	“親しみのなかにも基本を崩さずに、の方針を貫き、柔和な笑顔と落ち着いた声かけで全体の雰囲気が和む様子には、理念通りのその人らしさが実直に守られており、温かみのなかにも礼節漂う環境にあります。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の表情や会話などから本人の要望を汲み取り、こちらの一方的な支援ではなく、選択できる声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースをまず第一とし、ご家族様の要望も大切にし、穏やかな気持ちで生活できるようサポートしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪や身だしなみを大切に、整容のチェックを行い取り組んでいる。好みの色や着易さ・スタイルに配慮し身支度を整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様と一緒に食事の準備を行っている。食事中も楽しい雰囲気になるよう話題を提供し、咀嚼状態を観察し対応している。	法人の管理栄養士が作成したメニューをもとに減塩でも素材の味が活かした食事は、降圧剤不要となる人が増えるとの嬉しい結果を招き、食の大切さを実感しています。朝食はパンかご飯を選択することができています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下状態を把握し、食形態をその人に合ったものを提供している。むせが強い方はとろみやゼリーを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科との連携で、口腔ケア・肺炎防止に努めている。認知症の方はケアの必要性が理解できない方もおり、その人に合った声掛けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄や失禁の状態に合わせて、適宜リハビリパンツや布パンツの使用を行っている。時間ごとのトイレ誘導を行い、自然排泄を目指している。	排泄のサインを見逃さずトイレ誘導することで失敗が減り、たとえ失敗しても恥ずかしさを受け留めて自尊心を傷つけない対応を心得ています。日中の歩行や規則正しい生活リズムが夜間の自立と自然排泄に功を奏しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘と精神状態の関与は大きく、日常生活に影響が生じる。腹部の張りや食事摂取、水分摂取状況に注意し、排便の把握を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	立位保持が困難な方のみ安全面を考慮した日程で行っている。入浴を楽しみとしている方の支援は問題ないが、強く断られる方の対応に苦戦している。	季節の変わり湯や複数の入浴剤を準備し、入浴拒否には好きな花で脱衣所や浴室を装飾して気分を高め、その人に合ったアプローチで「快」の入浴となるよう努めています。湯は一人ひとり張り替えています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	環境の調整を行い、生活パターンを把握しながら安心した睡眠が得られるよう支援している。不穏の時は傾聴することで穏やかになれる方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルに効用や注意が記された説明用紙を入れ、理解と支援に努めている。特に糖尿病・高血圧・脳梗塞などの薬に対しては指導を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様と一緒に住み慣れた近くのお店に行き、親しみのある方々とお話をした。いつもとは違う表情のご利用者様がそこにいた。短期記憶障害はあるが感情はしっかり心に存在している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スタッフ体制もあるので、その日の希望に沿った対応は困難である。担当者が行事計画を立てゆっくりとした個別対応の時間を設けている。ご家族様の要望と一緒にイチゴ狩りに行った。	日常的には午前中を活動の時間として散歩に出かけています。「甘いものが食べたい」という利用者にパイ工場見学を企画したり、回転寿司やドライブ、大衆演劇といった担当職員が聴き出した要望をもとに個別外出計画を立てています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことの大切さは理解しているが、認知症における所持は、自己の管理ができず不穏になることも多い。お預かり金の中からご利用者が購入したい物を一緒に買いに行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	あらかじめご家族様に不穏時の対応や電話の時間帯など伺い対応している。お孫様との手紙のやり取りをとっても楽しみにされている方がいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有する空間は、お一人おひとりが自分のペースや能力・嗜好を踏まえた生活をしていただいている。また、ご利用者様の作品を掲示することでやりがいに繋がっている方もいる。	一枚一枚丁寧に折った鶴で彩られた壁面やちぎり絵、畑やプランターを利用した野菜作りの指南がみられます。個々の得意分野を披露する場が各所にあり、ポリシーをもって役割に集中できるスペースが守られ「受け入れられている、安心感で満ちていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日常生活の役割が確立されている方に対して、それを担う場所とテーブルの設置を行った。他の方においてもゆっくりくつろげる空間を提供している。テーブル席も配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持ち込んでいただき、空間が安心できる場所として生活できるような環境調整を行っている。	持ち込まれたカーテンやベッドが好みの空間を演出し、家族が撮影した写真に囲まれた居室は長い人生の歴史と深い愛情が感じられます。混乱期には危険のないよう整理し、リネン類は毎日順番に交換しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	夜間における環境の適正は転倒や転落事故にも大きく関与してくる。ご家族様にも理解・協力していただき安全対策に努めている。		